

ま な び や ま と

No. 37

令和6（2024）年3月

大和市教育委員会

生活科「町たんけん」

～大和市役所本庁舎の見学～

大和市立大野原小学校

11月10日（金）、大野原小学校の2年生が、生活科「町たんけん」で大和市役所の本庁舎を訪れました。

子どもたちは市役所の職員に案内され、庁舎内を順番に歩いて回りました。普段は見ることのない会議室や大和市議会が開催される本会議場にも入り、たくさん並ぶ椅子に驚いたり、絨毯の柔らかさを足で感じたり、様々なところに興味をもち楽しそうな表情を浮かべながら見学していました。それぞれの場所では、職員の説明に耳を傾け、メモをとる姿も見られました。見学の途中では大和市長とお話する機会もあり、「市長さんに会えて嬉しかった」と喜んでいました。活動の最後には、案内してくれた職員の皆さんに元気よくあいさつをして帰りました。

自分たちが住むまちの市役所を実際に訪れて、自分の目で見て感じる事ができ、子どもたちにとって貴重な体験となりました。



自然薯掘り

～特例校の活動紹介～

大和市立引地台中学校分教室

11月16日（木）、3日

間かけて掘り出した自然薯が全様を見せた日でした。掘り出した生徒からは、「掘っている最中には自然薯が憎いと思うほど手ごわい相手だった」との感想が聞こえました。

（こ）は引地台中学校不登校特例校分教室（以下、分教室）敷地内の一角。ある日教員が地面から延びる茎と葉を見て、自然薯を発見しました。収穫は諦めていたのですが、興味をもった生徒が学習活動の一環として取り組み、合計8時間ほどかけて、なんとか収穫しました。

分教室では、教科横断的な学びが展開されており、また「生活の中に学びあり」をモットーに生徒の主体性に寄り添った学習活動を進めています。この自然薯掘りも、「体作り」「植物の観察」「栽培」など様々な学習要素が含まれており、収穫した自然薯を「調理」するなど、さらなる展開も予想されます。

様々な生活体験を、意図的に学びへと転換することで、日常のすべてが貴重な学びとなっています。



ブックバイキング

～子どもたちと本に親しむ取り組み～

大和市立下福田小学校

下福田小学校では、ブックバイキングという「子どもたちの本に触れあう機会を増やし、本に親しむこと」を目的とした読み聞かせが年に3回開催されます。

第一回目は6月22日（木）の昼読書の時間に行われました。子どもたちはその時間まで、「誰が」「どんな本」の読み聞かせをしてくれるのか知らされていません。そのため、子どもたちは「どの先生が教室に来るのか」というわくわく感を募らせながら待っています。そして先生方が各教室に入っていくと、拍手とともに、「〇〇先生のお話を聞くのは初めて！」など、子どもたちの喜ぶ声が廊下伝いに響き渡りました。先生方も、いつもとは違う教室で少し緊張した様子でしたが、優しい声の調子で語りかけるように読み聞かせをしていました。

先生と子どもたちが同じ空間の中で同じ本と一緒に親しむことにより、子どもたちの気持ちを穏やかにするとともに、きつと子どもたちの間で共通の話題となり本を手取るきっかけにもなるという期待感を抱き、これからもブックバイキングは続いていきます。



タイピング練習

正しい姿勢で学ぼう

大和市立中央林間小学校

6月1日(木)、中央林間小学校5年4組の教室は、1人1台端末(Chromebook)を使ってタイピングする音で溢れていました。

この日は外部講師(株)教育ネット)を招き、情報モラルの学習とクラウド型AIタイピング教材「らっこたん」を活用したタイピングスキルの向上を目的とした授業を行いました。

「らっこたん」のページを開くと、「使ったことあるよ」「ホームポジションだ!」という声があがり、過去に体験したときのスコア(実績)を持っている子どもたちもいました。タイピングスキルの重要性を改めて知るとともに、速ければ良いのではなく、正しい姿勢で行わなければならない理由を講師から教えてもらい、その後の3分間のスキルテストに臨



みました。一つでも多く入力したい気持ちの中でも、正しい姿勢とホームポジションを意識しながら、みんな夢中で黙々と取

り組んでいました。

また、「学校紹介をしよう」では、コンテンツ制作者となり、学校行事や地域を紹介する文章を考えました。子どもたちからは「作るときはみんなの意見を聞こう」「チームワークが大切」などの声があがり、授業終了まで手を止めず、「まだ書きたい」と口にしながらいこの日の授業が終わりました。

講師から授業の端々で「メディアリテラシー」の大切さを説かれ、子どもたちは自然とうなずいていました。こうして当たり前のように子どもたちの中で情報モラルが育っていくことが大切で、かつ、子どもたちの中で育っていることを実感できた一日でした。

情報モラル教育

ネットとの上手な付き合い方

大和市立大和中学校

6月30日(金)、大和中学校の1年生から3年生までの生徒たちが学年ごとに、情報モラル教育としてインターネットの仕組みや、SNSの上手な使い方について学びました。

当日の授業は、Google Meetを活用して、専門業者が話をする部屋と各学級の教室をリアルタイムで繋ぎ、双方のやり取りをしながら行われました。クイズ形式のゲームや話し合い活動などをとおして、ネットを使った情報発信の仕組みや情報の真偽の判断、S

NSと個人情報保護の話などについて楽しみながら学ぶことができました。

インターネットに関係するトラブルについては、ニュースでも取り上げられることが多く、スマートフォンの所持率が高い中学校の生徒たちは身近な話題として関心をもっており、とても意欲的に活動に取り組んでいました。特に、インターネットの特性「ひろがる・のこる・わかる」の頭文字を取った「ひのわ(火の輪)」というキーワードは、ネットを使う時に留意しておくべき大事な言葉として印象に残ったようでした。

授業の振り返りでは、生徒たちから「インターネットトラブルの被害者にも加害者にもならないように気をつけた」と思いました。「火の輪」のキーワードを忘れずにネットを使いますなどの感想が出ました。生徒たちにとって、ネットと上手に付き合うための知識や判断力を養う有意義な時間となりました。



着衣泳

水難事故の対処方法を体験

大和市立引地台小学校

7月14日(金)、引地台小学校では、海や川の水難事故防止を図るという目的で、6年生児童を対象にした着衣泳の学習が行われました。

はじめに、子どもたちは着衣のまま水中に入ると、「服が重たい!」と口々に叫んでいました。そして



時間の経過に伴い、「いつもより体力が奪われる!」と水中では体力の消耗が大きいことや、この日は31℃と気温が高かったにもかかわらず、「少しづつ寒くなってきた」と体感温度が下がることを実感していました。

次に、おぼれそうになったときを想定した対処法について学びました。子どもたちはペットボトルやビニール袋を使って浮く方法や着衣しているTシャツを使った浮き身の仕方などを習い、浮かびながら救助を待つ練習をしましたが、「すぐに沈んじゃうよ!」とバランスが保てなかったり空気が抜けたりなど、浮いていられる時間の短さを痛感していました。

着衣泳を通して、水難事故を防ぐこととはもとより、万が一の状況下で自分の命を守る術を学ぶことができました。

おらが学校

～上中三大行事、駅伝大会～

大和市立上和田中学校

上和田中学校では例年、三大行事として、5月に運動会、10月に上軌祭(文化祭)、12月に駅伝大会が行われています。上和田中学校は行事が盛んな学校で、生徒たちも自分の得意分野を生き、各行事で活躍しています。今回は、上中三大行事の一つ「駅伝大会」について紹介します。



(タスキを次の走者へ)

駅伝大会は「駅伝の部」と「タイム走の部」があり、生徒はどちらからの部に出場します。まず、「駅伝の部」は保健体育の授業内でタイムを計測し、クラスで決められた人数を選出します。選手を目指し、授業内で一生懸命走る生徒たちの姿は、とても素晴らしいです。次に、「タイム走の部」は、生徒たちが男女別で一斉に走ります。タイム走の選手たちも上位入賞を目指して一生懸命走り、とても活気のある行事になっています。

この駅伝大会では、駅伝の部の優勝クラスに優勝杯が贈られますが、この優



(タイム走の様子)

陸上部顧問の先生がいました。情熱のある指導により、400mリレーで全国1位にも輝きました。その堀内先生が開校2年目に亡くなりました。当時この堀内先生の情熱を上和田中学校に残すにはどうしたら良いかと、ご家族や中学校の職員で話し合いをし、その結果、駅伝の優勝クラスに「堀内杯」を贈ることとなりました。

たのです。堀内先生の情熱と思いを、これからも生徒たちや先生方に代々伝えていかなければならないと思っています。



(優勝クラスの表彰)

この行事を開催する上で、交通整理にご協力いただいたPTAの皆様をはじめ、応援のためにご来校いただいた保護者の皆様や、ご協力いただいた地域の皆様、本当にありがとうございました。

あいさつ運動

～自主的な取り組みから～

大和市立北大和小学校

2月14日(水)の朝、北大和小学校の校門付近に、子どもたちの「おはようございます!」という元気の良い声が響いていました。

北大和小学校6年生の「あいさつ隊」は朝の登校時に校門のところに立ち、「おはようございます」「元気にあいさつをしよう」と声をかけています。このあいさつ運動は、「元気にあいさつできる学校にしたい」という思いから、数人の有志が自主的に集い始めたもので、少しずつメンバーも増え、毎日活動しているそうです。

3月に卒業するメンバーは、「活動を始めたころより、あいさつを返してくれる人が増えた」「あいさつが返ってくる嬉しくて元気が出る」「自分たちは卒業するけど、これからもあいさつを大切にしてほしい」と話していました。

あいさつをする子どもたちの表情は、学年に関係なくみんな明るく笑顔でした。子どもたちの自主的な活動が、学校全体の良い雰囲気をつくっていました。



代表委員会

～全校児童集会の運営～

大和市立西鶴間小学校

6月28日(水)、西鶴間小学校では、企画した全校児童集会の反省と新しい企画について、代表委員会のメンバーによる話し合いが行われました。事前集約したものが黒板に掲示されたほか、積極的な手が挙がり、反省を確認していました。「高学年が走ってしまい、低学年がついていけなかった」「中学年のやる事が少なかった」「低学年がじゃんけんの対象を自分で選ぶのは難しかった」など、自分の立場だけでなく他学年の活動にも視野を広げた改善点が挙げられていました。

これらの反省を生かして、次の企画「新聞ゲーム」の企画会も行われました。代表委員会のメンバー全員が、それぞれ2人組に分かれ、実際に新聞ゲームを体験し、クラスのみんなに説明する方法を確認しました。縦割りでの活動を想定しているため、異学年でペアを組んで体験するなど、本番を想定した充実した企画会が行われました。

学校教育だより「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業等を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

〈お問合せ先〉大和市教育委員会
教育研究所 2600-5213